

セメント系下地調整塗材

*F U J I K A W A* ローラーワン  
標準施工マニュアル

富士川建材工業株式会社

## 1. 概要

### 1. 1 適用下地

コンクリート、モルタル、ブロック、スレート板、ALC、ケイカル板  
 御影石、大理石、テラゾー、セメントリシン、陶磁器質タイル、鉄、ステンレス  
 酢ビ系床タイル用接着剤、ガラス  
 無機塗料、フッ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料、ウレタン塗料、アクリル樹脂塗料、  
 アクリル系吹き付けタイル  
 ウレタン防水トップコート、FRP防水  
 サイディング、合板（アク止め処理別途）、  
 EPS（ビーズ発泡スチロール板）・XPS（押出發泡ポリスチレン板）。  
 せっこうボード  
 エポキシ塗床  
 アスファルト

※ 撥水性のある下地や耐アルカリ性の無い下地は、接着しない可能性があります。

※ 試験塗りをを行い、接着性を確認してください。

### 1. 2 使用材料

下地調整材	使用材料	概要	荷姿・配合比	塗り厚	標準施工面積	塗付方法
	FUJIKAWA ローラーワン	アクリルカチオン系 ポリマーセメントモ ルタル	粉体 20kg/袋 水 約6kg	0.5mm	約32.5㎡/袋 (0.5mm)	ローラー 刷毛

必要に応じて使用

吸水調整材	使用材料	概要	荷姿・配合比		標準施工面積	塗付方法
	シーレックス AP	カチオン性 アクリル樹脂 エマルジョン 浸透性下地 補強材	16kg 缶	2~3 倍液 約150g/㎡ (下地の吸水量 により異なる)	約210~320㎡/缶	ローラー 刷毛 エアレス
			4kg ポリ容器		約50~80㎡/缶	
			1kg ポリ容器		約13~20㎡/缶	

注)・上記の各数値は、全て標準のものです。

- ・施工方法、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。
- ・セメントを主原料としている為、セメントの特徴として白華が起こる場合があります。施工後水分が付着した場合、冬季で雨や雪・強風などにより気温が低い時期に起こりやすくなります。また、施工後時間が経過した後に2次白華が起こる事もあります。(特に冬季気温が低い場合)

### 1. 3 主な施工道具

- ・養生道具一式
- ・ミキサー、練りダル、ひしゃく
- ・はかり
- ・ローラー（中毛、短毛、マスチック）、ローラーバケット、刷毛

## 2. 施工方法

### 2. 1 下地処理・下地の確認

- 突起物、レイトンス、硬化不良部分、ほこり、泥分、油分、脆弱な旧仕上材などはサンダーやワイヤブラシなどで充分除去し、水洗い清掃または高圧洗浄を行った後、十分乾燥させてください。
- 旧仕上材がタイル張りの場合は、打診により浮きが無いことを確認してください。浮きがある場合はピンニング等の処理を行ってください。
- FRP防水、ステンレス、エポキシ塗り床下地の場合は、表面を研磨してください。
- 吸水の激しい下地（ALC、ブロック、ケイカル板、せっこうボード、合板等）の場合は、シーレックス AP2 倍希釈液（シーレックス AP：水＝1：1）を塗布してください（1 回目塗布後、乾燥したのを確認し 2 回目を塗布する）。  
注）コンクリートやモルタルへ、直接塗りつけ可能ですが、シーレックス AP3 倍希釈液又はシーレックス 5 倍希釈液を塗布した方が、安定して接着します。  
注）せっこうボードは、せっこうボード表面の原紙がアルカリ性環境下で劣化し、剥離の懸念があるため、シーラー（「シーレックス AP」2 倍希釈液又は「シーレックス AF5000」3 倍希釈液：2 回塗布で約 60 g/m<sup>2</sup>）が必要です。
- サイディング下地の場合は、シーレックス AP2～3 倍希釈液（チョーキングしている場合 2 倍、していない場合 3 倍）を塗布してください（1 回目塗布後、乾燥したのを確認し 2 回目を塗布する）。
- 下地が十分乾燥していることを確認してください。
- 旧ビニルクロス改修の場合は、下表の処置を行ってから、塗り付けてください。

項目	方法・判断基準	結果と処置
①下地（ボード）の固定状況	ボードのガタツキ、ボードの浮き、ジョイント部のクラック	ボードの固定補強、ボードを剥がし、ボード下地の補強、及びボードの貼り替え
②クロスの剥がれ、浮きの程度	剥がれ、浮きの少ない場合のみ摘要	ちり廻りは 2～3cm 程度幅でクロスを剥がす。また、浮きを確認できる部分は予め剥がすクロスちり廻り及びクロスジョイント部分は肩幅 10mm 程度のステンレスステーブルにより 10cm 間隔位に打ち止める ローラーワン施工後にクロスの浮き箇所が見られる場合は、当該箇所をカットし、糊等を注入し、接着させてください。
③汚れの状態・程度	程度大：雨ジミ、その他変色の激しい場合、油などが付着した場合	程度大→剥がす
④カビがあるか	カビ及びその色素の付着浸透、カビによるクロスの剥がれ、浮き	有り→カビの除去。クロスを剥がす。原因の除去（結露対策等）
⑤鉄錆あるか	クロスに錆色が発生	有り→広めにクロスを剥がし、サビの除去 錆止め処理

## 2. 2FUJIKAWA ローラーワンの施工

### ①練り混ぜ

容器に、所定水量の8割程度の水をいれ、ローラーワンを徐々に加えながら、ハンドミキサー等でダマにならないように、少し固いぐらいで十分に練り混ぜてください。さらに残りの水を徐々に加えて攪拌し、作業しやすい状態に調整してください。

### ②塗り付け

ローラーや刷毛でムラ無く塗りつけてください。

塗り厚は0.5mmまでとし、それ以上塗る場合は、1回目塗った材料が乾燥してからおこなってください。

### ③養生撤去 他

○激しい通風や直射日光を避け、必要に応じてシート養生をおこなってください。

○施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をしてください。

○養生の撤去は、施工終了後直ちに行ってください。すぐに撤去できない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行ってください。

### 3. 注意事項

#### <諸注意>

- 施工前に必ず試し塗りをを行い、仕上がり・接着性を確認してください。
- 撥水性のある下地や耐アルカリ性の無い下地は、接着しない可能性があります。
- 気温 5℃以下での施工は作業を中止するか適切な保温措置をとってください。
- 水以外の他の材料を混合しないでください。
- 練り混ぜた材料は加水後 1 時間以内に使用し、練り足しは避けてください。
- 練り水、容器、攪拌機などはきれいなものを使用してください。
- 工事中は、周辺の部材及び仕上げ面を汚損しないよう、養生テープ等にて養生を行ってください。  
万一付着した場合は水で洗浄してください。
- 使用後の器具は、お湯または水にて洗浄してください。
- ロットにより多少のバラツキがあります。

#### <安全上の注意>

- 取扱中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具を着用してください。
- 皮膚に付着した場合は清浄な水で十分に洗い流してください。
- 目に入った場合は、ただちに清浄な水で最低 15 分間、目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受けてください。
- 粉塵等を吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 飲み込んだ場合は清浄な水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の手当を受けてください。
- 取り扱い後は頭、手、口等を十分洗浄してください。
- 飛散した材料は、掃除機等で吸い取って回収してください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。

#### <保管上の注意>

- 製品の保管は湿気の少ない屋内にパレットを敷き、床面より離して保管してください。
- 湿気対策として、ビニールで覆ったり、パレットに積まれた材料の周囲をラップ等で養生したりすると効果的です。
- 開封した材料は早めに使い切ってください。
- 製造年月日より、6 ヶ月以内に使用してください。

#### <輸送上の注意>

- 紙袋の破れ、落下がないように荷崩れ防止等に配慮してください。
- 降雨等の水ぬれに配慮してください。

#### <廃棄上の注意>

- 都道府県条例に基づき処理するか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。

#### <その他>

- 本施工マニュアルは諸般の事情により改訂される場合があります。使用にあたっては最新版であるかを確認してください。
- その他各製品包装などに記載の注意事項に従って下さい。

## 本施工マニュアルの取り扱いについて

本施工マニュアルは、標準的な施工方法を示したもので、全ての現場に当てはまるとは限りません。各施工現場では、本施工マニュアルでは合致できない様々な状況が考えられますので、施工業者におかれましては、各々の現場状況にあった施工及び管理をお願いいたします。

※本記載内容は現時点での資料・データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

---モノづくりから仕事づくりへ---



富士川建材工業株式会社

URL <https://fujikawakenzai.co.jp/>

e-mail : [mail@fujikawakenzai.co.jp](mailto:mail@fujikawakenzai.co.jp)

本社・本社工場	〒 236-0002	横浜市金沢区鳥浜町13番地	TEL 045-772-1811	Fax 045-772-0467
横浜支店	〒 236-0002	横浜市金沢区鳥浜町13番地	TEL 045-769-2326	Fax 045-773-1315
東京支店	〒 121-0061	東京都足立区花畑2-5-5	TEL 03-5686-5650	Fax 03-5686-5643
名古屋支店	〒 486-0952	愛知県春日井市追進町1-43	TEL 0568-35-5670	Fax 0568-33-5740
大阪支店	〒 567-0854	大阪府茨木市真砂2-12-1	TEL 072-630-6511	Fax 072-638-8766
ルルーティ古川 1F				
広島事業所	〒 733-0832	広島市西区草津港2-4-19	TEL 082-270-0097	Fax 082-277-0422
福岡事業所	〒 812-0016	福岡市博多区博多駅南4-2-10	TEL 092-284-2197	Fax 092-284-2093
南近代ビル6F				